

事例検討会について（案）

在宅療養に関わる医療・介護の関係者が集まり、多職種の相互理解を深めることを目的として、区内を練馬・光が丘・石神井・大泉の4地区に分けて事例検討会を実施する。また、検討会後に交流会を開催し、顔の見える関係を作る。

1 開催日時

平成 26 年 8、9 月

平日夜間、土曜日の夕方以降または日曜日の午後

2 時間半程度（交流会含む）

2 会場

練馬地区 練馬区役所地下多目的会議室、区民・産業プラザ区民交流ホール

光が丘地区 //

石神井地区 石神井公園区民交流センター

大泉地区 勤労福祉会館

3 人数

60～80名程度

4 対象者

医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、病院職員、ケアマネジャー、介護サービス事業者

5 事例検討会の形式

- 事例の概要説明と、関わった関係職種がそれぞれの立場から、工夫した点、苦労した点、良かった点、今後の課題などを発表する。
- 質疑応答の時間を設け、会場の医療・介護関係者等と共有する。

6 事例のテーマ例

- 独居で看取りを行ったケース
- 家族の協力が得られず支援が困難だったケース
- 末期がん、認知症など疾病が異なる複数の事例を取り上げる。

7 開催後の周知、検証

- 開催概要をかわら版として、参加しなかった方も含めた関係者や区民に広く周知し、在宅療養や事例検討会の取組を広げる契機とする。
- 事例集を作成して関係者に配布し、在宅療養支援の参考としてもらう。
- 参加者を対象としてアンケートを実施し、連携強化の効果等を検証する。

【参考】第3回専門部会 意見交換のまとめ

- 病院が主催している検討会の問題点は、病院の視点で事例をとらえがちになることである。在宅医、病院、いろんな立場で意見をぶつけ合ってお互いの立場を理解することが大切。病院と在宅医が逆の見方で意見を交換することで、問題点が見えてくる。
- 区内4地区など小さい単位で実施することが望ましい。
- 病院と在宅での医療の違いを知ってもらいたいので、在支診以外の診療所や病院の医師にも参加してもらいたい。
- がん末期の方が、急性期治療が終わった後亡くなるまで、どのようにして地域で支えていくかが重要なテーマの一つとなっている。